

# Bird Research Annual Report 2015

バードリサーチ活動報告



NPO法人 バードリサーチ  
Japan Bird Research Association

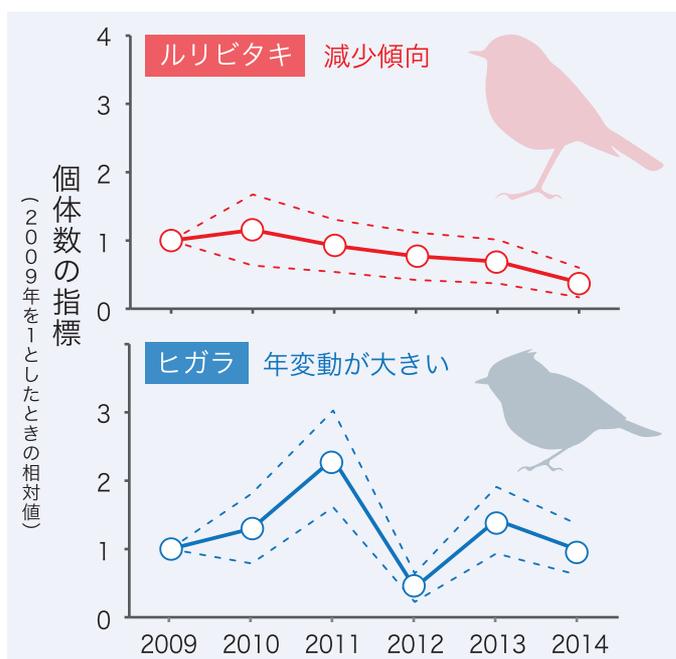
# 森, 草原, 身近な場所の 鳥のモニタリング

家のまわりの身近な鳥の変化を見守る「ベランダバードウォッチ」や、年による変化の大きい冬鳥の飛来状況を見守る「冬鳥ウォッチ」などを実施し、日本の自然環境の変化をモニタリングする環境省の「モニタリングサイト1000」の調査にも協力しています。またガビチョウやソウシチョウといった外来種や分布の変化が顕著な種をターゲットにした調査も実施しています。



ルリビタキ (Photo: 小野安行)

## ルリビタキが減少？



越冬期の鳥たちが、減っているのか、それとも増えているのかを明らかにすることは、冬鳥の渡来数が年変動したりするため、簡単ではありません。バードリサーチが事務局をつとめているモニタリングサイト1000の調査の結果の蓄積が進んだため、その様子が見えてきました。多くの冬鳥の個体数に明確な変化がないなか、ルリビタキが減少している可能性があります。また、ヒガラ、アトリ、ツグミといった鳥の年変動の増減パターンが一致していて、木の実の豊凶と関連している可能性が伺えました。

BRNews 12(11)

### ルリビタキとヒガラの越冬数

## 全国鳥類繁殖分布調査がはじまります



1970年代と1990年代に環境省の全国鳥類繁殖分布調査が行なわれました。多くの鳥の分布の変化が明らかになり、レッドリストの改訂など様々な保護施策に使われています。前回の調査から20年が経とうとしており、日本野鳥の会、日本自然保護協会、日本標識協会、山階鳥類研究所、環境省生物多様性センターなどと一緒に3回目の調査を2016年よりスタートさせます。現在、調査地の担当者を募集中。皆さんの協力なしに成功させることはできません。みんなで日本の鳥の今を明らかにしましょう。

bird-atlas.jp, BRNews 12(7)



ヤマセミ (Photo: 河村圭二)



クロジ (Photo: 星野雄軌)

# 水鳥のモニタリング

## ー水辺の鳥を調査するー



サルハマシギ (Photo: 渡辺美郎)

国内に渡来するガンカモ類を湖や沼、河川などの環境指標として、シギ・チドリ類を湿地の環境指標として、モニタリングを行なっています。また、それぞれの種に注目した調査、環境に注目した調査、初認情報、外来種の動向、カウントイベントなどを実施し、水鳥や水鳥が生息する環境の調査を実施しています。

### シギ・チドリ類全体の減少傾向

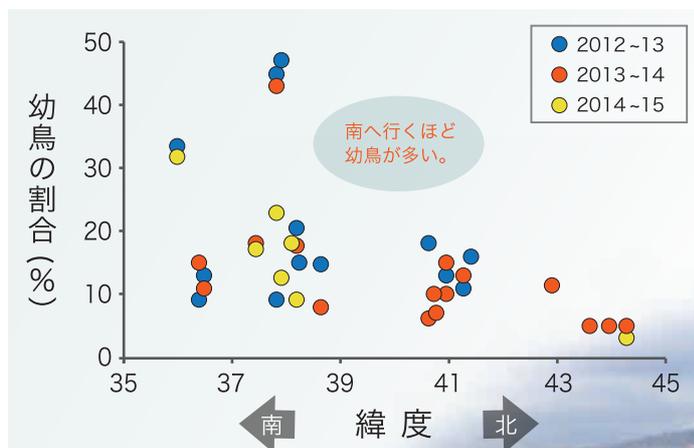
全国のシギ・チドリ類のモニタリング調査では、2000年から2012年にかけて、シギ・チドリの増減傾向を調べました。分析できた40種のシギ・チドリ類のうち、シーズン別に明らかな増減のあった種を表に示しました。繁殖地の温暖化の影響、中継地の生息地の減少、越冬地での密漁・捕獲の問題など、彼らを取り巻く状況は厳しくなっています。水辺の種の保全是、国内だけの問題に留まらず東アジア全体の問題となっています。

BRNews 12(3), 水鳥通信2015 May.

シーズン別のシギ・チドリ類の増減傾向

	春期	秋期	冬期
増加傾向	コチドリ オオメダイチドリ オグロシギ アカアシシギ コアアシシギ キアシシギ イソシギ アカエリヒレアシシギ	セイタカシギ ツルシギ コアアシシギ クサシギ	イカルチドリ ミヤコドリ イソシギ
減少傾向	ダイゼン シロチドリ チュウジシギ タシギ	ダイゼン コチドリ シロチドリ オオソリハシシギ チュウシャクシギ キアシシギ キョウジョシギ オジロトウネン アカエリヒレアシシギ	ムナグロ シロチドリ ミュビシギ トウネン エリマキシギ

### オオハクチョウは南の越冬地ほど幼鳥が多い



↑ オオハクチョウの幼鳥の割合と緯度の関係

ロシアの繁殖地で春に生まれたハクチョウ類の幼鳥は、初めての越冬期は灰色の羽色をしているので、真っ白な成鳥とは区別して数を調べることができます。全国の越冬地で幼鳥数を調べたところ、オオハクチョウでは南の越冬地の方が幼鳥数が多くなっていることが分かりました。幼鳥は成鳥よりも気候が温暖な地域で越冬しているようです。

水鳥通信2015年 Oct.

オオハクチョウ (Photo: 上山義之)

# 生物季節のモニタリング

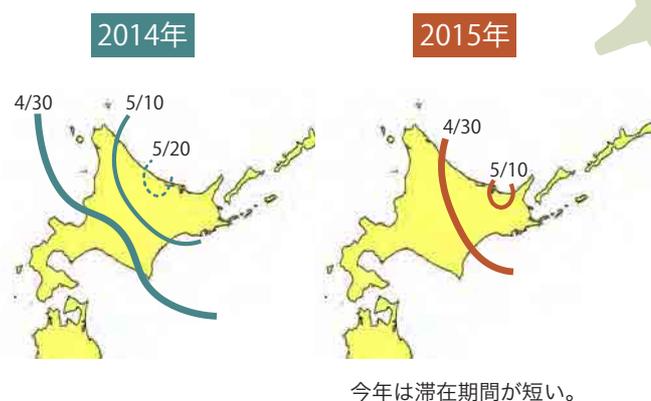
気候変動により、桜の開花時期が早くなったりするなど、生物季節の乱れが心配されています。そこで全国の皆さんの協力を得て、ウグイスやヒバリの初鳴き、夏鳥や冬鳥の渡来時期、ヤマガラやツバメの繁殖時期などを記録し続けて、気候変動の鳥たちへの影響を明らかにしています。



オオソリハシシギ (Photo: 湯浅芳彦)

## シギ・チドリ類の渡りパターン

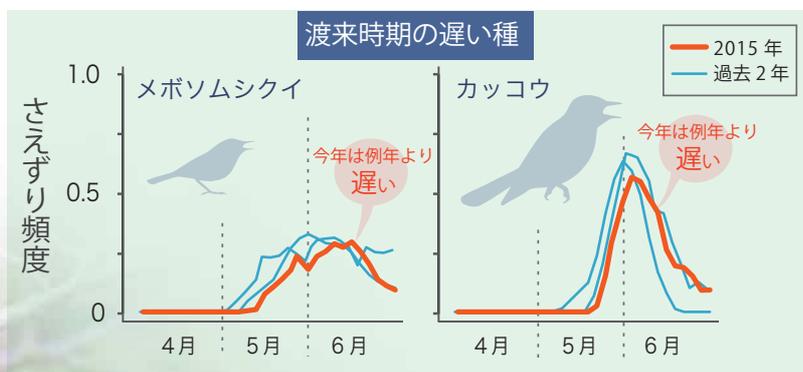
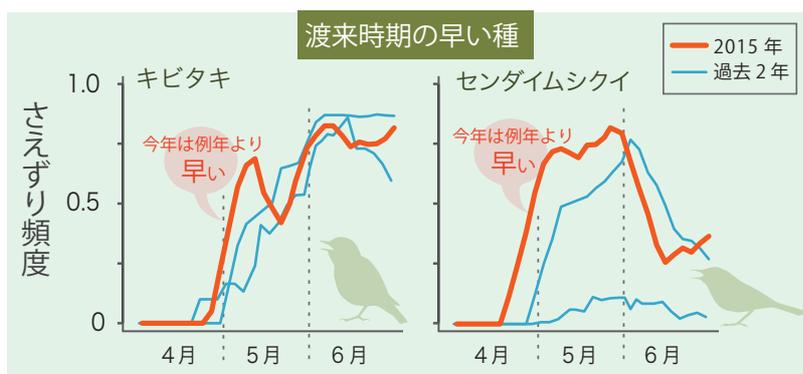
春期に越冬地から繁殖地に向かうシギ・チドリ類の初渡来日について報告してもらい、渡りパターンを調査しています。メダイチドリなど早春に観察されるものや、やや遅くなってから一気に渡ってくるチュウシャクシギなど種によって渡りのパターンはそれぞれです。今年の春は、特に北海道で気温が高かったため、渡り始めの遅いチュウシャクシギやキアシシギは渡り時期の滞在時間が短く通過が早い傾向がありました。渡りは年による気温や気象条件によって影響を受けていると考えられます。 BRNews 12(6), 水鳥通信2015 Oct.



↑ 北海道のチュウシャクシギの渡来ライン

## 今年は種により早かったり遅かったり…

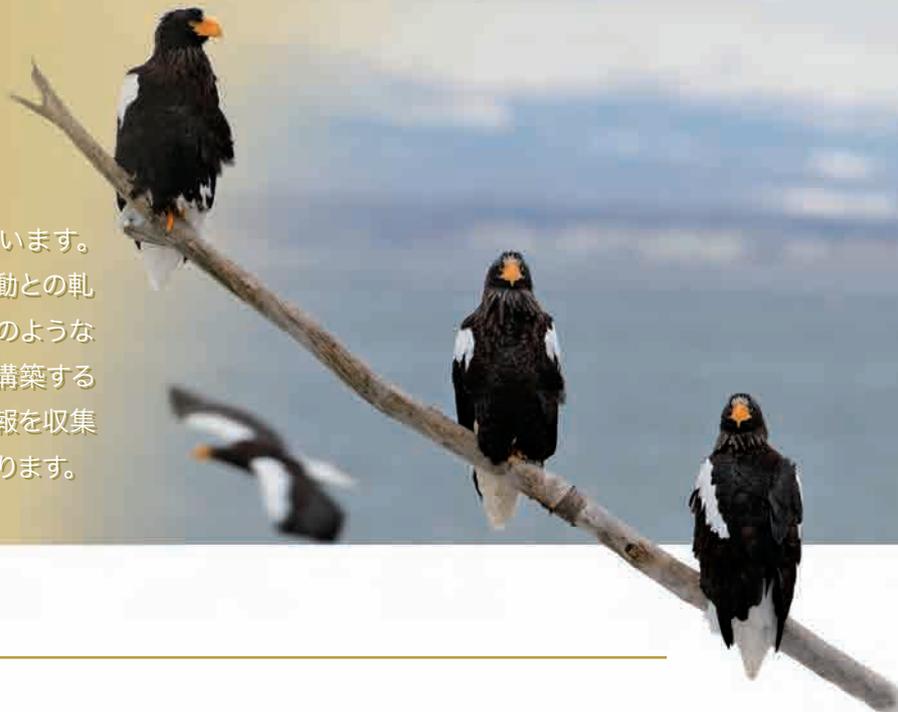
全国の森にICレコーダを設置してタイマー録音をしたり、大学の演習林に設置してあるライブ音配信の仕組みを利用したりして、鳥たちが渡来したり、活発にさえずる時期を調査し、気候変動の鳥への影響を調べています。今年は春早くから暖かだったためか、多くの鳥は例年よりも早くから渡来し、活発にさえずっていました。ところが5月になって渡来する渡来時期の遅いメボソムシクイやカッコウなどの鳥は逆に例年よりも遅かったのです。5月になって寒くなったということはなく、その理由はわかりません。データを蓄積し、これらの種の渡りのタイミングに何が影響するのか、明らかにしていきたいと思います。 BRNews 12(10)



↑ さえずり頻度からわかる渡来時期の違い

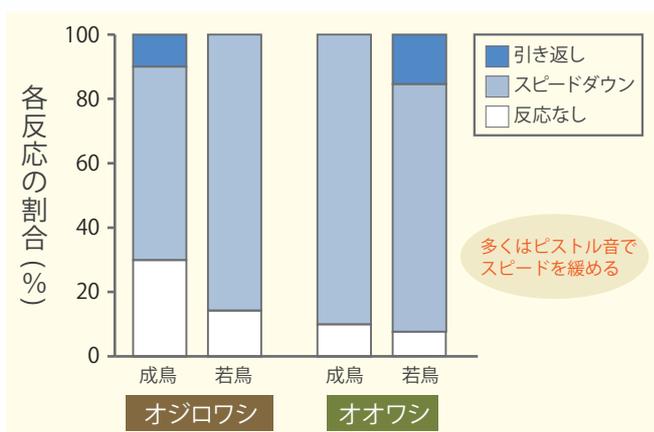
# 鳥との共存

環境の改変により、絶滅したり急減した種が増えています。またその反面、一部の種は個体数が増加して、人間活動との軋轢が生じ、その解消が社会的に求められています。このような問題を軽減、解消し、人間と自然が共存できる社会を構築するためには、各生物種の分布や生態といった基礎的な情報を収集して現状を把握し、有効な対策を検討していく必要があります。



オオワシ (Photo: 藤井 薫)

## 音でバードストライクが防げる？



北海道では風車にオジロワシが衝突するバードストライクが問題となっています。まだその原因はわかっていませんが、落ちていた魚や他個体を気にしたりして、よそ見をしたがために衝突してしまう可能性が考えられています。これを避けるためには、何らかの方法で、よそ見をしているワシに風車の存在を知らせる必要があります。そこで、運動会のスターターピストルで実験したところ、ピストル音がすると、ワシは音の鳴った方向を注目し、スピードを緩めることがわかりました。実用のためには多くの課題がありますが、バードストライクを減らすため、さらに検討をつづけていきたいと思っています。

BRNews 11(5)

↑ ピストル音に対するオジロワシとオオワシの反応

## 海外にウの管理を学ぶ。見つめ直した現在地

カワウと人とのより良い関係を築いていくためには、被害の状況を正しく捉えて、広域的な視点で管理を行っていくことが必要です。今年、東海地方でモニタリングの重要性について研修会を開催したほか、国際シンポジウムの運営をお手伝いしました。このシンポジウムでは、イギリスとアメリカからウ類の研究者を招聘し、海外でのカワウのモニタリングや管理について講演してもらいました。また、その前日には、カワウに関わる国内外の研究者と環境省や滋賀県の行政担当者で現地視察を行ない、熱い議論を交わしました。このほか、被害が拡大している最中の東北と九州において、カワウの管理に関する勉強会を開催したり、各都道府県でのカワウの調査や管理を指導するなど、カワウの広域管理の普及に努めました。

BRNews 12(2), 12(6), 12(10)



◀ 琵琶湖を視察する国内外のカワウ研究者一行

◀ 琵琶湖の漁業被害について、漁業者から話を聞いた。



# みんなで楽しく鳥類学

バードリサーチは、全国の鳥の生態や生息状況に興味を持って「調べてみよう!」という人たちとのネットワークを作り、わくわくするような調査や研究をみんなで一緒にできる団体でいたいと考えています。全国的な調査体制を広げていくために、この1年間に行なった活動をご報告します。



## 体験型講座「ID-BIRD」

バードリサーチではさまざまな参加型調査を提案しています。しかし、敷居が高いと感じられる方も多く、まずは経験者と一緒に調査に参加してみたいとお考えの方もいるようです。そこで、さまざまな環境で模擬的な野外調査を行ない、各種の生息環境や識別、調査

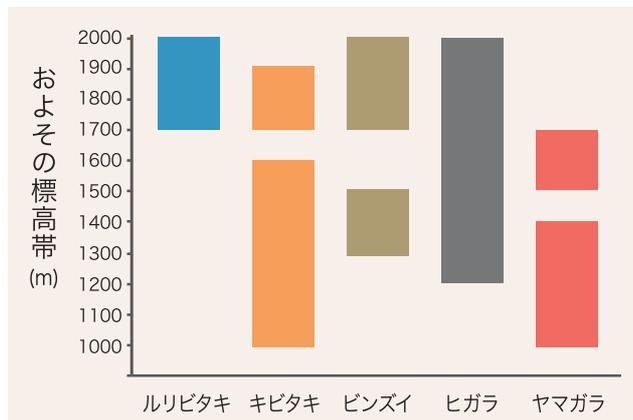
方法を体験してもらう企画「ID-BIRD try」を行ないました。今回の試行を踏まえて、内容を見直し、定例講座として確立していきたいと考えています。

BRNews 12(1)



▲谷津田の鳥を観察する参加者。

▲富士山 ID-BIRD のようす。講師の森本元さんの説明を聞く参加者。



▲富士山 ID-BIRD の参加者が調べた結果の一部。鳥によって観察された標高が異なっていた。

## 鳥の鳴き声マイスターへの道

森林性の鳥の調査には、鳴き声で種を識別するスキルが必要です。対象をなかなか目で確認できないので、一人で学ぶのは難しいものです。そこで、バードリサーチホームページの人気コンテンツ「鳴き声図鑑」や東京大学等が行っている Cyberforest のライブ音配信音源を利用して、鳴き声を学ぶためのページを作成しました。匿名の協力者の方が作ってくれた鳴き声クイズや、野外で録音された生の音源で自分で識別に挑戦した後、ソナグラムを使って答えを確認することができます。



◀ バードリサーチホームページ上のコンテンツ「鳴き声クイズ」

▼ ソナグラムを使って学ぶ実践編も。



 バードリサーチ調査研究支援プロジェクト

みなさまから少しずつの寄付を募って、それをもとに鳥類の調査や研究を行なう方に支援を行ないました。支援額の総額は71万5千円、これらを得票数で割り振り9件の支援先に贈呈しました。また、昨年度(2014年度)の支援先の結果がまとめ、支援者の方々に調査結果の報告をしました。

また、今年はいじめて成果報告会を(株)モンベルの協賛を受けて開催し、2011年度から2013年度の研究成果の中から優秀な成果をあげた研究—「プレイバック法を用いた北海道のヨタカの広域分布調査」(河村和洋氏)—にバードリサーチ賞を授与しました。

BRNews 11(12), 12(3), 12(6), 12(7), 12(9)



↑ 今年度の支援先  
上位5件の得票  
結果



成果報告会のように ▶

 ニュースレターと研究誌の発行・書籍の出版

バードリサーチ創立当初から続く会員向けニュースレターも今年で12年目。これまで続けてきていたPDFの形式を変更し、普及するスマートフォンなどに対応するため、Webニュースとして発行するようにしました。その中でほぼ毎号掲載してきたコーナー「生態図鑑」は、従来のPDFの形式を残していますが、今後は不定期の掲載にしていきます。

研究誌「Bird Research」には今年7本の論文が掲載されました(2015年11月24日時点)。また、バードリサーチが執筆・監修する「野鳥手帖」も今年で3年目。カワセミをあしらった水色の表紙で、山と溪谷社より出版されました。



## 調査へのご協力ありがとうございました。

ここまで紹介したものの以外にも、ツバメと人が仲よく暮らしていくための支援活動として、簡単に取り付けられるプラスチック段ボール製のファン受けと、落下したヒナへの対応や糞対策の参考になるツバメ対応マニュアルを公共施設や店舗などに配布しました。このプロジェクトは(株)シー・アイ・シーと皆様からの寄付金で実施しました。

BRNews 12(7)



バードリサーチでこの一年間に行なった調査は、皆様に参加いただくことなしにはできなかったものです。全調査をあわせ 1694 名の皆様にご協力いただきました。今年の活動へのご協力を感謝するとともに、今後ともよろしくお願いたします。

表紙写真：オオジシギ (Photo: 藤井 薫)

## STAFF



左上から時計回りに、奴賀俊光、守屋年史、加藤ななえ、小島みずき (インターン)、高木憲太郎、神山和夫、植田睦之



黒沢令子



平野敏明



三上かつら

特定非営利活動法人 バードリサーチ

〒183-0034 府中市住吉町 1-29-9

Tel / Fax : 042-401-8661

E-mail : br@bird-research.jp

<http://www.bird-research.jp>

デザイン：いきものパレット

\*この活動報告はFSC認証紙を使用しています。